



## 4.3 新機能ガイド

(DCSpider V4.3 New Function Guide)

ドキュメント・リリース日:2023年1月31日 (第1版)



Copyright© 2023 TerraSky Co., Ltd. All rights reserved.

# 目次

1.	はじめに .....	5
1.1.	注意事項 .....	5
1.1.1.	お客様へのお願い .....	5
1.1.2.	商標について .....	5
1.2.	表記について .....	6
1.3.	マークについて .....	7
2.	サーバ・クライアントアプリケーション .....	8
2.1.	DCSpider 全般 .....	8
2.2.	DCSpiderServer .....	14
3.	ツール .....	16
3.1.	CLI Console .....	16
3.2.	JDBC Proxy Server .....	18
4.	トリガー .....	19
4.1.	HTTP トリガー .....	19
5.	DCSpider Studio for Web .....	20
5.1.	全般 .....	20
5.2.	デザイナー .....	20
6.	DCSpider Studio for Desktop .....	21
6.1.	コントロールパネル .....	21
6.1.1.	DCSpiderServer の設定 .....	21
6.1.2.	休日設定 .....	21
6.1.3.	ヘルプ .....	22
7.	Mapper .....	23

8.	データベースアダプタ.....	23
8.1.	共通.....	23
8.2.	Access 2013 アダプタ .....	24
8.3.	DB2 アダプタ.....	24
8.4.	Oracle アダプタ .....	24
8.5.	PostgreSQL アダプタ.....	25
8.6.	SQL Server アダプタ .....	25
8.7.	JDBC アダプタ .....	26
9.	ファイルアダプタ.....	27
9.1.	Excel アダプタ.....	27
9.2.	ファイル操作アダプタ .....	27
10.	ネットワークアダプタ.....	28
10.1.	メール アダプタ .....	28
11.	クラウドアダプタ.....	29
11.1.	Amazon Web Services アダプタ .....	29
11.1.1.	Amazon Aurora for MySQL アダプタ.....	29
11.1.2.	Amazon RDS for MySQL アダプタ .....	29
11.1.3.	Amazon RDS for Oracle アダプタ .....	29
11.1.4.	Amazon RDS for PostgreSQL アダプタ .....	29
11.1.5.	Amazon RDS for SQL Server アダプタ .....	30
11.1.6.	Amazon Redshift アダプタ .....	31
11.1.7.	Amazon S3 アダプタ .....	31
11.2.	Log Manager for Salesforce アダプタ.....	32
11.3.	Salesforce アダプタ.....	33
11.4.	Salesforce Bulk アダプタ.....	37

11.5. Salesforce Metadata アダプタ ..... 41

# 1. はじめに

本ドキュメントは、DCSpider V4.3の新機能・変更点について記述しています。

## 1.1. 注意事項

### 1.1.1. お客様へのお願い

- 本ソフトウェアの著作権は株式会社テラスカイまたはそのライセンサーが所有しています。
- 本ソフトウェアおよび本ドキュメントを無断で複製、転載することを禁止します。
- 本ドキュメントは万全を期して作成されていますが、万一不明な点や誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたら弊社までご連絡ください。
- 本ソフトウェアは使用者の責任でご使用ください。ご使用の結果、万一トラブルおよび訴訟などが発生しなくても、あらゆる直接、または間接の損害および損失につきまして、弊社は一切責任を負わないものとします。あらかじめご了承ください。
- 本ソフトウェアの仕様や本ドキュメントに記載されている内容は、改善のため予告なしに変更されることがあります。
- 本ソフトウェアの使用には、ソフトウェアライセンス契約が必要で、株式会社テラスカイまたはそのライセンサーの重要な業務機密と独自の情報が含まれており、日本国政府の著作権法で保護されています。株式会社テラスカイまたはそのライセンサーのソフトウェアと本ドキュメントの無断使用は、損害賠償、刑事訴訟の対象となります。

### 1.1.2. 商標について

- TerraSky、TerraSky ロゴ、テラスカイ、DCSpider、DCSpider マーク、ディーシーズパイダーは、株式会社テラスカイの商標または登録商標です。
- その他記載されている会社名・商品名・サービス名などは、各社の商標および登録商標です。
- 個々のページに表示・記載されたこれら商標などの複製・転用を禁止致します。

## 1.2. 表記について

本ドキュメント内の表記は、次の規則に沿って行われています。

- DCSpider の画面に表示されるメニュー名・タブ名・プロパティ項目名および値・ボタン名は[]で囲んで太字で表します。また、それ以外の機能名や画面のタイトル、名称のないものは「」で囲んで前者と区別しています。
- 「\$DCSPIDER\_HOME」は DCSpider をインストールしたディレクトリを表します。  
デフォルトでは、Windows 版の場合は「C:¥Program Files¥DCSpider」、UNIX/Linux 版の場合は「<ユーザのホームディレクトリ>/DCSpider」となります。
- x86 版とは、32bit OS を表します。  
x64 版とは、64bit(Intel 64/AMD64) OS を表します。
- <と>で囲まれた名称は、可変であることを表します。  
例:\$DCSPIDER\_HOME/server/logs/<日付ディレクトリ>
- 本ドキュメント内に表記されているウェブサイトの URL は 2022 年 11 月現在のものです。ウェブサイトの都合などにより、予告なしに URL が変更になる場合があります。
- 「Studio」とは「DCSpider Studio」を、「Studio for Web」とは「DCSpider Studio for Web」を指します。
- DCSpiderServer についての記述は Windows 版・UNIX/Linux 版共通になっています。  
オペレーティングシステムに依存する内容(パス区切り文字など)は適宜読み替えてご使用ください。
- 「DSS-」で始まる番号は、各問題の管理用の一意な ID となります。

## 1.3. マークについて

本ドキュメント内で使用しているマークについての説明は以下の通りです。

マーク	説明
	操作や設定に関するヒントであることを表します。
	操作や設定に関する注意事項や制限事項であることを表します。
	詳細な説明が別の項目に記載されていることを表します。

## 2. サーバ・クライアントアプリケーション

### 2.1. DCSpider 全般

- DCSpider のサービス開発、および運用の自動化を容易にする CLI Console のコマンド群を追加しました。

CLI Console とは、DCSpiderServer を管理するためのコマンドラインインターフェースです。

DCSpider V4.3 では、これまで GUI での操作が必要だった以下の操作を、CLI Console から実行できるようにしました。CLI Console のコマンドをバッチプログラム(CLI バッチ)で実行することにより、サービス開発者や運用管理者のオペレーションを自動化でき、負荷を軽減できます。

- プロジェクトの共有化設定 (DSS-28641, DSS-22702)  
プロジェクトの共有化コマンド(proshare)と、共有プロジェクトの非共有化コマンド(prounshare)を追加しました。これらのコマンドはユーザを指定してプロジェクトの共有設定を行うことができます。
- 共有プロジェクトの権限設定 (DSS-28641, DSS-22702)  
共有プロジェクトの権限変更コマンド(prochmod)を追加しました。ユーザとグループを指定して共有プロジェクトの権限設定を変更できます。
- サービスの権限設定 (DSS-28642)  
サービスを所有するグループの変更コマンド(svcchgrp)、サービスのアクセス権限モードの変更コマンド(svcchmod)、およびサービスの所有者の変更コマンド(svcchown)を追加しました。これらのコマンドはサービスの権限設定を変更できます。
- 仕様書の生成 (DSS-12550)  
プロジェクト仕様書の生成コマンド(prospecgen)と、スクリプト仕様書の生成コマンド(scriptspectgen)を追加しました。

これらの機能と、既存の機能を組み合わせた自動化のユースケースを紹介します。

- 関連するコマンドを組み合わせることで、複数の操作をひとまとめで自動化する  
例 1) プロジェクトの共有化設定(proshare)と共有プロジェクトの権限設定(prochmod)を組み合わせて、プロジェクトの共有化から権限変更までをひとまとめで実行する  
例 2) サービスの権限設定(svcchgrp, svcchmod, svcchown)とインポート(imp)・エクスポート(exp)を組み合わせて、本番移行と同時に移行環境に合わせた権限の変更までをひとまとめで実行する
- 大規模開発や IT サポート部門の一元管理におけるプロジェクト配布や共有化を自動化する

プロジェクトのダウンロード(prodl)・アップロード(proul)とプロジェクトの共有化設定(proshare)・共有プロジェクトの権限設定(prochmod)を組み合わせて、テンプレートプロジェクトの配布や、複数 DCSpiderServer 間のデータ移行を自動化する

- 組織変更や人事異動による権限変更を自動化する  
共有プロジェクトの権限変更(prochmod)やサービスの権限設定(svcchgrp, svcchmod, svcchown)を組み合わせて、組織変更や人事異動によって所有者や権限を変更したい場合に、複数プロジェクト/サービスの一括権限設定を自動化する
- プロジェクトや仕様書など成果物の定期的なバックアップを自動化する  
仕様書の生成(prospecgen, scriptspecgen)と、エクスポート機能(exp)やプロジェクトのダウンロード機能(prodl)を組み合わせて、成果物の日次バックアップや提出を自動化する
- 新規に以下のプラットフォームに対応しました。(DSS-27647, DSS-26188, DSS-28059)
  - サーバ・実行用クライアント、開発用クライアント共通
    - ◇ Microsoft Windows Server 2019 Essentials/Standard/Datacenter (※)
  - (※)Server Core およびデスクトップ エクスペリエンス搭載サーバーをサポートします。
  - サーバ・実行用クライアント
    - ◇ Red Hat Enterprise Linux Server 8.x (x64 版)

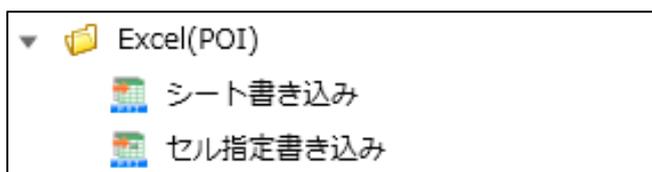
一部のコンポーネントは上記のプラットフォームに対応していません。

 詳細については、ヘルプを参照してください。

- Excel POI アダプタを追加しました。(DSS-27053)

本アダプタのオペレーションは、以下の通りです。

- シート書き込み処理
- セル指定書き込み処理



 詳細については、ヘルプを参照してください。

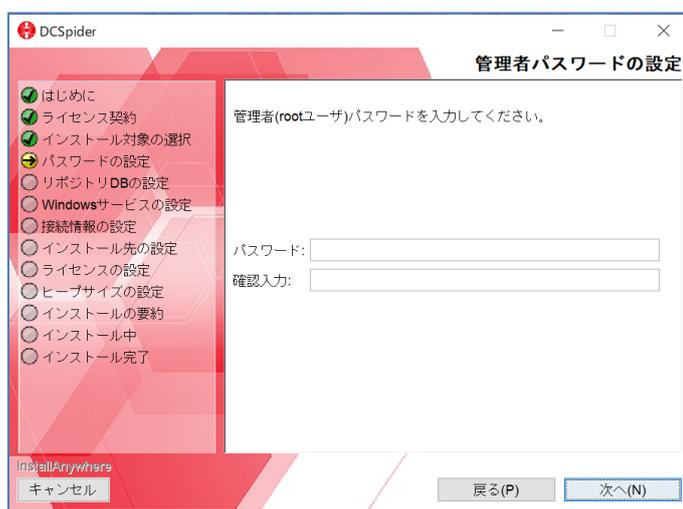
- 同梱している Java Runtime Environment(JRE)のバージョンを AdoptOpenJDK 1.8.0\_265 に変更しました。(DSS-28329)
- 製品ロゴを変更しました。(DSS-28721)
- ライセンスファイルの形式を変更しました。(DSS-28327)

DCSpider V4.3 にバージョンアップするには、必ずライセンスファイルの再発行が必要となります。

 詳細については、「DCSpider V4.3 アップグレードガイド」を参照してください。

- インストール時の管理者 (root ユーザ) パスワードを入力必須に変更しました。(DSS-28321)

インストールするには、必ず root ユーザのパスワードを入力してください。



- リポジトリ DB として、MySQL 8.0 に対応しました。(DSS-26197)

本対応により、接続設定ウィザードで MySQL を選択した場合、[URL] の末尾に以下のパラメータが付与されるようになります。

- allowPublicKeyRetrieval
- serverTimezone

- リポジトリ DB として、Oracle Database 19c に対応しました。(DSS-27670)

※リポジトリ DB として使用する場合、データベースの「データベース文字セット」は「AL32UTF8 - Unicode UTF-8 汎用キャラクタ・セット」に設定する必要があります。

 詳細については、「DCSpider V4.3 インストールガイド」を参照してください。

- リポジトリ DB として、Amazon RDS for Oracle 19c に対応しました。(DSS-28398)

※リポジトリ DB として使用する場合、データベースの「データベース文字セット」は「AL32UTF8 - Unicode UTF-8 汎用キャラクタ・セット」に設定する必要があります。



詳細については、「DCSpider V4.3 インストールガイド」を参照してください。

- リポジトリ DB 対応データベースに以下が追加されました。
  - DB2 V11.5 for Linux, UNIX, and Windows (DSS-28330)
  - MySQL 8.0 (DSS-26197)
  - Oracle Database 19c (DSS-27670)
  - Oracle Cloud Infrastructure Database (Oracle Database 21c) (DSS-28909)
  - Oracle Cloud Infrastructure Database (Oracle Database 19c) (DSS-27346)
  - PostgreSQL 13 (DSS-28863)
  - PostgreSQL 12 (DSS-28085)
  - PostgreSQL 11 (DSS-26873)
  - Microsoft SQL Server 2019 (DSS-28286)
  - Amazon RDS for MySQL 8.0 (DSS-26945)
  - Amazon RDS for Oracle 19c (DSS-28398)
  - Amazon RDS for PostgreSQL 13 (DSS-29352)
  - Amazon RDS for PostgreSQL 12 (DSS-28532)
  - Amazon RDS for PostgreSQL 11 (DSS-27364)
  - Amazon RDS for PostgreSQL 10 (DSS-26326)
  - Amazon RDS for SQL Server 2019 (DSS-29149)
  - Amazon RDS for SQL Server 2017 (DSS-26648)
  - Amazon RDS for SQL Server 2016 (DSS-26308)
- ヘルプの「パラレルストリーミング処理」ページで、「注意事項」項に PSP データフロー中に条件分岐コンポーネントを配置する場合の注意事項を追加しました。(DSS-27253)

- WebConsole 機能を削除しました。(DSS-28322)
- 各種ドキュメントで、販売およびサポートが終了になった以下のコンポーネントのサポート終了に関する記述の追加、または削除を行いました。(DSS-28027, DSS-27860, DSS-27754, DSS-27726, DSS-27048, DSS-27022, DSS-29480)
  - プラットフォーム
    - ◇ Windows Server 2008 R2
    - ◇ Windows Server 2008
    - ◇ Windows 7
    - ◇ Red Hat Enterprise Linux Server 5.5+
    - ◇ CentOS 6.x
    - ◇ Amazon Linux AMI
  - アダプタ
    - ◇ Access 2010 アダプタ
    - ◇ Oracle 18c アダプタ
    - ◇ Oracle 12cR2 アダプタ
    - ◇ Oracle 11gR2 アダプタ
    - ◇ Oracle OCI アダプタ
    - ◇ PostgreSQL 9.6 アダプタ
    - ◇ PostgreSQL 9.5 アダプタ
    - ◇ PostgreSQL 9.4 アダプタ
    - ◇ SQL Server 2008 R2 JDBC アダプタ
    - ◇ SQL Server 2008 JDBC アダプタ
    - ◇ SQL Server 2008 ODBC アダプタ
    - ◇ Excel 2010 アダプタ
    - ◇ Amazon RDS for MySQL 5.6 アダプタ

- ◇ Amazon RDS for Oracle 12cR2 アダプタ
  - ◇ Amazon RDS for Oracle 11g R2 アダプタ
  - ◇ Amazon RDS for PostgreSQL 9.5 アダプタ
  - ◇ Amazon RDS for PostgreSQL 9.4 アダプタ
  - ◇ Amazon RDS for SQL Server 2012 アダプタ
- 販売およびサポートが終了になった以下のコンポーネントをインストーラに同梱しないようにしました。(DSS-27367)
    - ◇ DB2 V9.5 アダプタ
    - ◇ DB2 V9.1 アダプタ
    - ◇ SQL Server 2005 JDBC アダプタ
    - ◇ SQL Server 2005 ODBC アダプタ
    - ◇ Amazon RDS for MySQL 5.1 アダプタ

## 2.2. DCSpiderServer

- 同梱している Apache Tomcat のバージョンを「9.0.37」に変更しました。(DSS-28323)
- XML ログで、「start」要素にコンポーネント種別を示す「component」属性を出力するようにしました。(DSS-27395)



詳細については、ヘルプの「ログガイド」ページを参照してください。

- XML ログで、スレッド処理で実行した際に、各要素に実行スレッドの ID を示す「thread」属性を出力するようにしました。(DSS-27395)



詳細については、ヘルプの「ログガイド」ページを参照してください。

- ヘルプの「HTTPS 設定」ページで、「keytool」コマンドのオプションに関する記述を見直しました。(DSS-27360)

主な修正点は以下の通りです。

- 「CA の証明書のインポート」に「-noprompt」オプションを追加
- 「サーバ証明書のインポート」に「-noprompt」「-trustcacerts」オプションを追加

- グローバルリソースのデフォルトのアクセス権限を設定できる機能を追加しました。機能を使用する場合は、以下の対象ファイルにキーを追加し、値を指定してください。(DSS-26723)
  - 対象ファイル  
  
system.properties
  - 配置場所  
  
\$DCSPIDER\_HOME/server/conf
  - キー  
  
default.globalresource.permissions
  - 設定する値  
  
グローバルリソースのデフォルトのアクセス権限を、3桁の8進数で設定します。
  - 設定例  
  
default.globalresource.permissions=644
-  詳細については、ヘルプの「サービスガイド」 - 「サービスの運用」 - 「詳細なトピック」 - 「プロパティリファレンス」を参照してください。
- ヘルプの「DCSpiderServerの設定」ページで、「サーバの移行(エクスポート)」項のサーバ移行を使用する際の前提条件に関する記述を修正しました。(DSS-25374)

## 3. ツール

### 3.1. CLI Console

- サービスを所有するグループの変更を行う「svcchgrp」コマンドを追加しました。(DSS-28642)

 詳細については、CLI Console で「man svcchgrp」および「help svcchgrp」の実行結果を参照してください。

- サービスのアクセス権限モードの変更を行う「svcchmod」コマンドを追加しました。(DSS-28642)

 詳細については、CLI Console で「man svcchmod」および「help svcchmod」の実行結果を参照してください。

- サービスの所有者の変更を行う「svcchown」コマンドを追加しました。(DSS-28642)

 詳細については、CLI Console で「man svcchown」および「help svcchown」の実行結果を参照してください。

- プロジェクトの共有化を行う「proshare」コマンドを追加しました。(DSS-28641)

 詳細については、CLI Console で「man prochmod」および「help prochmod」の実行結果を参照してください。

- プロジェクトの共有化を行う「proshare」コマンドを追加しました。(DSS-22702)

 詳細については、CLI Console で「man proshare」および「help proshare」の実行結果を参照してください。

- プロジェクト仕様書の生成を行う「prospecgen」コマンドを追加しました。(DSS-12550)

 詳細については、CLI Console で「man prospecgen」および「help prospecgen」の実行結果を参照してください。

- スクリプト仕様書の生成を行う「scriptspecgen」コマンドを追加しました。(DSS-12550)



詳細については、CLI Console で「man scriptspecgen」および「help scriptspecgen」の実行結果を参照してください。

```
# help prospecgen
使用方法:
  prospecgen [-s | -u <user>] [-p ] [-m ] [-t ] [-f ] <project_name> <destination_file_path>
# help svcchmod
使用方法:
  svcchmod mode service_name
# help svcchown
使用方法:
  svcchown user_name service_name
# help prochmod
使用方法:
  prochmod [-u <user> | -g <group> ] <mode> <shared_project>
# help proshare
使用方法:
  proshare [-u <user> ] [-n <new_project_name> ] <project_name>
# help prospecgen
使用方法:
  prospecgen [-s | -u <user>] [-p ] [-m ] [-t ] [-f ] <project_name> <destination_file_path>
# help scriptspecgen
使用方法:
  scriptspecgen [-s | -u <user>] [-p ] [-m ] [-t ] [-f ] <project_name> <script_name> <destination_file_path>
#
```

## 3.2. JDBC Proxy Server

- 新規に以下のプラットフォームに対応しました。(DSS-26188)

- サーバ・実行用クライアント、開発用クライアント共通

- ✧ Microsoft Windows Server 2019 Essentials/Standard/Datacenter (※)

(※)Server Core およびデスクトップ エクスペリエンス搭載サーバーをサポートします。

一部のコンポーネントは上記のプラットフォームに対応していません。



詳細については、ヘルプを参照してください。

## 4. トリガー

### 4.1. HTTP トリガー

- 以下の対応を行いました。(DSS-26114)
  - HTTP リクエストで OPTIONS メソッドを使用できるようにしました。
  - HTTP リクエストのメソッドを格納することができるトリガー変数 `trigger.http_method` を追加しました。
- [レスポンス設定/エンコーディング] で別ページにフォワードさせる場合、エンコードの指定を有効にするようにしました。(DSS-29018)
  -  詳細については、「DCSpider V4.3 アップグレードガイド」の「5. バージョンアップに伴う特別な設定」項を参照してください。
- トリガーで使用しているライブラリ「commons-fileupload」のバージョンを「1.4」に変更しました。(DSS-28294)

## 5. DCSpider Studio for Web

### 5.1. 全般

- バージョン情報で、[全般] タブに Studio for Web の「クライアントバージョン」を表示するようにしました。(DSS-24873)
- パスワードのように伏せ字になる入力フィールドに改行を含むデータを貼り付けた場合、改行を半角スペースに変換しすべての文字列を貼り付けるようにしました。(DSS-28755)
- サポートウェブブラウザのバージョンを以下のように変更しました。(DSS-28357)
  - Microsoft Edge 87 以降
  - Firefox 83 以降
  - Google Chrome 87 以降
- 以下のウェブブラウザをサポート終了としました。(DSS-28357)
  - Internet Explorer 10

### 5.2. デザイナ

- スクリプト呼び出し処理で、[必須設定] タブの [サービス] の一覧をソートして表示するようにしました。(DSS-27353)
- プロジェクト/スクリプト仕様書の生成で、コンポーネントアイコン数や Mapper のロジックアイコン数などの統計情報を出力する機能を追加しました。(DSS-27064)

 詳細については、ヘルプを参照してください。

- プロジェクトをデザイナーで展開する際のパフォーマンスを改善しました。(DSS-26582)

## 6. DCSpider Studio for Desktop

### 6.1. コントロールパネル

#### 6.1.1. DCSpiderServer の設定

- サーバ移行の「DCSpiderServer 設定のエクスポート/インポート」で、エクスポートまたはインポートに 290 秒以上かかる場合、強制終了せず、処理を継続するように変更しました。(DSS-25568)

#### 6.1.2. 休日設定

- 休日設定の「2006-2030 日本カレンダー (土日・祝日あり)」に以下の対応を行いました。(DSS-29038)
  - 「国民の祝日に関する法律 (昭和 2 3 年法律第 1 7 8 号) の特例」により、2021 年の以下の休日を変更

休日	変更前	変更後
海の日	7 月 19 日	7 月 22 日
山の日	8 月 11 日	8 月 8 日
体育の日 (スポーツの日)	10 月 11 日	7 月 23 日

- 休日設定の「2006-2030 日本カレンダー (土日・祝日あり)」に以下の対応を行いました。(DSS-25975)
  - 天皇退位及び天皇即位による祝日(天皇誕生日)の変更

変更前	変更後
2019 年以降の 12 月 23 日 休日	平日
2020 年以降の 2 月 23 日 平日	休日

- 「天皇の即位の日及び即位礼正殿の儀の行われる日を休日とする法律」および、「国民の祝日に関する法律第 3 条第 3 項に規定する休日」により、2019 年の以下の日付を平日から休日へ変更

- 4月30日 休日 祝日法第3条第3項による休日
- 5月1日 休日(祝日扱い) 天皇の即位の日
- 5月2日 休日 祝日法第3条第3項による休日
- 10月22日 休日(祝日扱い) 即位礼正殿の儀の行われる日

- 「国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）の特例」により、2020年の以下の休日を変更

休日	変更前	変更後
海の日	7月20日	7月23日
山の日	8月11日	8月10日
体育の日（スポーツの日）	10月12日	7月24日

### 6.1.3. ヘルプ

- サポートウェブブラウザのバージョンを以下のように変更しました。(DSS-28357)
  - Microsoft Edge 87 以降
  - Firefox 83 以降
  - Google Chrome 87 以降
- 以下のウェブブラウザをサポート終了としました。(DSS-28357)
  - Internet Explorer 10

## 7. Mapper

- 和暦に変換ロジックで、以下の条件を満たした場合、「元年」として処理するようにしました。(DSS- 27106)
  - 入力データが元号の 1 年目である
  - ロジックのプロパティ設定で年の設定が「年」である例: 「2019-05-1T00:00:00.000+0900」を「令和元年五月一日」に変換
- 以下の Mapper ロジックで、新元号を使用できるように変更しました。(DSS-26818)
  - 和暦に変換
  - 和暦のパーズ

## 8. データベースアダプタ

### 8.1. 共通

- テーブル書き込み処理で、[書き込み設定] タブの [アップデートモード] で [インサート・アップデート] を選択して実行した場合、以下のログを出力するようにしました。(DSS-27371)
  - INSERT 文の実行でエラーが発生した場合、FINSET レベルのログ
  - UPDATE 文の実行結果が 0 件だった場合、FWARN レベルのログ
- JDBC アダプタ、ODBC アダプタ以外のデータベースアダプタで、テーブル書き込み処理でデータを全件挿入する場合の書き込み方式を選択できるインサートモード機能を追加しました。(DSS-27010)
  - プロパティ項目名  
[書き込み設定] タブの [インサートモード]
  - 値の説明  
1 行インサート:入力データの 1 行ごとに SQL 文を実行します。  
バッチインサート:[バッチサイズ]に指定した行数ごとにバッチ更新します。
  - デフォルト値

バッチインサート

 詳細については、ヘルプを参照してください。

## 8.2. Access 2013 アダプタ

- Access 2013 アダプタで、Microsoft Access 2019 への接続に対応しました。(DSS-26190)

 詳細については、ヘルプを参照してください。

## 8.3. DB2 アダプタ

- DB2 V11.5 アダプタを追加しました。(DSS-28330)

本アダプタは、DB2 V11.5 for Linux, UNIX, and Windows への接続が可能なアダプタです。

 詳細については、ヘルプを参照してください。

## 8.4. Oracle アダプタ

- Oracle 21c アダプタを追加しました。(DSS-28909)

本アダプタは、Oracle Cloud Infrastructure Database (Oracle Database 21c) への接続が可能なアダプタです。

 詳細については、ヘルプを参照してください。

- Oracle 19c アダプタで、Oracle Cloud Infrastructure Database (Oracle Database 19c) への接続に対応しました。(DSS-27346)

 詳細については、ヘルプを参照してください。

- Oracle 19c アダプタを追加しました。(DSS-27670)

本アダプタは、Oracle Database 19c への接続が可能なアダプタです。

 詳細については、ヘルプを参照してください。

- ヘルプの「ライブラリのインストール」ページで、「ライブラリの入手方法」項に記載の URL を更新しました。(DSS-26950)
- ヘルプのサポートバージョンごとの「制限事項」ページで、「仕様制限」項にシノニムの操作に関する記述を追加しました。(DSS-26602)

## 8.5. PostgreSQL アダプタ

- PostgreSQL 13 アダプタを追加しました。(DSS-28863)

本アダプタは、PostgreSQL 13 への接続が可能なアダプタです。

 詳細については、ヘルプを参照してください。

- PostgreSQL 12 アダプタを追加しました。(DSS-28085)

本アダプタは、PostgreSQL 12 への接続が可能なアダプタです。

 詳細については、ヘルプを参照してください。

- PostgreSQL 11 アダプタを追加しました。(DSS-26873)

本アダプタは、PostgreSQL 11 への接続が可能なアダプタです。

 詳細については、ヘルプを参照してください。

## 8.6. SQL Server アダプタ

- SQL Server 2019 アダプタを追加しました。(DSS-28286)

本アダプタは、Microsoft SQL Server 2019 への接続が可能なアダプタです。

 詳細については、ヘルプを参照してください。

- ヘルプの「ライブラリのインストール」ページで、「必要なライブラリ」項のライブラリのバージョン表記を 2 桁に変更しました。(DSS-28929)

- サポートするライブラリのドライババージョンを以下のように変更しました。(DSS-26325)

変更前	変更後
SQL Server 2019 / 2017 / 2016 / 2014 アダプタ	Microsoft JDBC Driver 8.4 for SQL Server

バージョンの変更により、コンポーネント変数に格納されるエラー内容が変わる場合があります。

## 8.7. JDBC アダプタ

- グローバルリソースの [コネクション設定] タブで、クライアント情報が設定できる機能を追加しました。(DSS-27317)

- プロパティ項目名

[クライアント情報プロパティ一覧]

- プロパティの説明

クライアントに関する追加情報を指定します。

- 設定例

PostgreSQL 9.6 に接続する場合、以下の設定を行うと接続先のカラム「Application\_name」に値 [ <任意> ] を送信します。

- 名前 : ApplicationName
- 値 : <任意>



詳細については、ヘルプ「JDBC」 - 「グローバルリソースのプロパティ」ページを参照してください。

## 9. ファイルアダプタ

### 9.1. Excel アダプタ

- Excel 2019 で作成した Excel ブックに対応しました。(DSS-26189)



詳細については、ヘルプを参照してください。

- ヘルプの「シートのコピー処理」ページで、「仕様制限」項に外部参照（リンク）のコピーには対応していない旨を記載しました。(DSS-27695)

### 9.2. ファイル操作アダプタ

- ZIP 解凍処理で、ZIP ファイルのエントリに親フォルダへの参照がある場合、コンポーネントの実行に失敗するように変更しました。(DSS-28837)

## 10. ネットワークアダプタ

### 10.1. メール アダプタ

- 以下オペレーションで、OAuth 2.0 認証に接続できる機能を追加しました。(DSS-28538)
  - メール受信(IMAP4)処理
  - 複数メール処理
  - 1通メール送信処理

OAuth 2.0 認証を行って接続する場合、OAuth 2.0 認証専用のグローバルリソースを使用します。

 詳細については、ヘルプを参照してください。

## 11. クラウドアダプタ

### 11.1. Amazon Web Services アダプタ

#### 11.1.1. Amazon Aurora for MySQL アダプタ

- Amazon Aurora for MySQL 5.7 アダプタを追加しました。(DSS-26012)

本アダプタは、MySQL 5.7 on Amazon Aurora への接続が可能なアダプタです。

 詳細については、ヘルプを参照してください。

#### 11.1.2. Amazon RDS for MySQL アダプタ

- Amazon RDS for MySQL 8.0 アダプタを追加しました。(DSS-26945)

本アダプタは、Amazon RDS for MySQL 8.0 への接続が可能なアダプタです。

 詳細については、ヘルプを参照してください。

- ヘルプ「グローバルリソースのプロパティ」ページの「接続パラメータについて」項で、serverTimezone キーの備考に MySQL サーバのタイムゾーンを使用する場合の注意事項を記載しました。(DSS-27195)

#### 11.1.3. Amazon RDS for Oracle アダプタ

- Amazon RDS for Oracle 19c アダプタを追加しました。(DSS-28398)

本アダプタは、Amazon RDS for Oracle 19c への接続が可能なアダプタです。

 詳細については、ヘルプを参照してください。

- ヘルプのサポートバージョンごとの「制限事項」ページで、「仕様制限」項に シノニムの操作に関する記述を追加しました。(DSS-26602)
- ヘルプの「ライブラリのインストール」ページで、「ライブラリの入手方法」項に記載の URL を更新しました。(DSS-26950)

#### 11.1.4. Amazon RDS for PostgreSQL アダプタ

- Amazon RDS for PostgreSQL 13 アダプタを追加しました。(DSS-29352)

本アダプタは、PostgreSQL 13 on Amazon RDS への接続が可能なアダプタです。

 詳細については、ヘルプを参照してください。

- Amazon RDS for PostgreSQL 12 アダプタに対応しました。(DSS-28532)

本アダプタは、PostgreSQL 12 on Amazon RDS への接続が可能なアダプタです。

 詳細については、ヘルプを参照してください。

- Amazon RDS for PostgreSQL 11 アダプタに対応しました。(DSS-27364)

本アダプタは、PostgreSQL 11 on Amazon RDS への接続が可能なアダプタです。

 詳細については、ヘルプを参照してください。

- Amazon RDS for PostgreSQL 10 アダプタに対応しました。(DSS-26326)

本アダプタは、PostgreSQL 10 on Amazon RDS への接続が可能なアダプタです。

 詳細については、ヘルプを参照してください。

### 11.1.5. Amazon RDS for SQL Server アダプタ

- Amazon RDS for SQL Server 2019 アダプタを追加しました。(DSS-29149)

本アダプタは、Microsoft SQL Server 2019 on Amazon RDS への接続が可能なアダプタです。

 詳細については、ヘルプを参照してください。

- Amazon RDS for SQL Server 2017 アダプタを追加しました。(DSS-26648)

本アダプタは、Microsoft SQL Server 2017 on Amazon RDS への接続が可能なアダプタです。

 詳細については、ヘルプを参照してください。

- Amazon RDS for SQL Server 2016 アダプタを追加しました。(DSS-26308)

本アダプタは、Microsoft SQL Server 2016 on Amazon RDS への接続が可能なアダプタです。

 詳細については、ヘルプを参照してください。

- ヘルプの「ライブラリのインストール」ページで、「必要なライブラリ」項のライブラリのバージョン表記を 2 桁に変更しました。(DSS-28929)

- サポートするライブラリのドライババージョンを以下のように変更しました。(DSS-26325)

変更前	変更後
SQL Server 2019 / 2017 / 2016 / 2014 アダプタ	Microsoft JDBC Driver 8.4 for SQL Server

バージョンの変更により、コンポーネント変数に格納されるエラー内容が変わる場合があります。

### 11.1.6. Amazon Redshift アダプタ

- ヘルプの「ライブラリのインストール」ページで、「必要なライブラリ」項にドライバ依存ライブラリに関する記述を追加しました。(DSS-29087)
- サポートするライブラリのドライババージョンを「RedshiftJDBC42-no-awssdk-1.<バージョン>.jar」に変更しました。(DSS-27699)

### 11.1.7. Amazon S3 アダプタ

- AWS 署名バージョン 4 による API リクエストを行うようにしました。(DSS-27191)
- ファイル/フォルダコピー処理を追加しました。(DSS-22251)

Amazon S3 上にあるファイル/フォルダを、Amazon S3 の指定した Bucket のフォルダにコピーします。



詳細については、ヘルプを参照してください。

## 11.2. Log Manager for Salesforce アダプタ

- AppExchange パッケージのサポートバージョンを 1.1 に変更しました。(DSS-29543)
- グローバルリソースで、[ログイン先] に [login.salesforce.com] または [SandBox] を選択している場合、[ログイン URL] の API バージョンを API 29.0 から API 50.0 に変更しました。(DSS-29543)
- 「Log Manager for Salesforce アダプタ AppExchange パッケージ インストールガイド」で、以下の対応を行いました。
  - 「2. インストール手順」項で、パッケージのバージョン変更に伴い、インストール URL とインストール時に入力が必要なパスワードを変更しました。
  - 「1.4. サポートウェブブラウザについて」項を追加しました。
- 「Log Manager for Salesforce アダプタ Getting Started」の「4.1.4. 登録したジョブ情報の閲覧」項で、表示に関する注意事項を記載しました。

## 11.3. Salesforce アダプタ

- Salesforce API 53.0 アダプタを追加しました。  
本アダプタは、Salesforce API 53.0 への接続が可能なアダプタです。
- 以下のオペレーションにて、スキーマ定義の API 項目を、指定したファイルにカンマ区切りで出力するプロパティを追加しました。  
本機能で出力したファイルを [ファイルからスキーマ定義を読み取り] で読み込むことが可能です。

[接続先] に「API 53.0」のグローバルリソースを選択した場合、使用できます。

- データ読み取り (クエリー)
- データ読み取り (レプリケーション)
- データ読み取り (ID による検索)
- データ読み取り (親→子リレーション)
- データ読み取り (子→親リレーション)
- データ書き込み (INSERT)
- データ書き込み (UPDATE)
- データ書き込み (DELETE)
- データ書き込み (UPSERT)
- マルチデータファイル生成
- ファイルアップロード

- 以下のオペレーションにて、スキーマ定義の項目単位での null 更新を可能にするプロパティを追加しました。

本機能を使用することで、スキーマ定義の項目に対する入力データが null であった場合、null で上書きするか、該当項目の更新をスキップし、更新前の状態を維持するかを項目単位で選択することが可能となります。

[接続先] に「API 53.0」のグローバルリソースを選択した場合、使用できます。

- データ書き込み(UPDATE)
  - データ書き込み(UPSERT)
  - ファイルアップロード処理
- グローバルリソースで、Salesforce にて廃止された以下のAPI バージョンをサポート終了としました。
- API 18.0
  - API 14.0
  - API 7.0



詳細については、ヘルプの「稼働環境」ページを参照してください。

- Salesforce API 50.0 アダプタを追加しました。(DSS-29543)  
本アダプタは、Salesforce API 50.0 への接続が可能なアダプタです。
  - グローバルリソースで、Salesforce にてサポート終了が計画されている以下の API バージョンを非推奨としました。(DSS-29543)
- API 29.0
  - API 26.0
  - API 23.0



詳細については、ヘルプの「稼働環境」ページを参照してください。

- 新規に以下のプラットフォームに対応しました。(DSS-26990)
- Amazon Linux 2

- ヘルプで、データを送受信する際のデータ型の形式ルールについて記述した「データ型の形式」ページを追加しました。(DSS-28955)
- Salesforce API 43.0 アダプタ を追加しました。(DSS-28955, DSS-28421)  
本アダプタは、Salesforce API 43.0 への接続が可能なアダプタです。
- 以下オペレーションで、time 型 (時間データ型) に対応しました。(DSS-28955, DSS-28421)
  - データ書き込み(INSERT)処理
  - データ書き込み(UPDATE)処理
  - データ書き込み(DELETE)処理
  - データ書き込み(UPSERT)処理
  - マルチデータ書き込み処理



詳細については、ヘルプを参照してください。

※[接続先] で「API 43.0」以降のグローバルリソースを選択した場合に使用できます。

- REST API を使用してコンテンツバージョン (ContentVersion) にファイルをアップロードまたは更新する「ファイルアップロード処理」を追加しました。(DSS-28955, DSS-28421)

本オペレーションのファイルサイズ制限は 2GB (ヘッダーを含む) になります。



詳細については、ヘルプを参照してください。

※[接続先] で「API 43.0」以降のグローバルリソースを選択した場合に使用できます。

- グローバルリソースの [SOAP ヘッダー設定] タブに、アラートオプションが有効な場合でもアラートがスキップされ、重複レコードが保存される[DuplicateRule ヘッダー (allowSave)] プロパティ項目を追加しました。(DSS-28421, DSS-28955)

- データ書き込み(INSERT)
- データ書き込み(UPDATE)
- データ書き込み(UPSERT)
- マルチデータ書き込み

 詳細については、ヘルプを参照してください。

※[接続タイプ] で「API 43.0」以降を選択した場合に使用できます。

- 以下のオペレーションで、「SOQL(検索条件)の作成」画面の「条件項目の選択」下の列に値を入力・選択すると、条件項目を絞り込むことができるようにしました。(DSS-28421, DSS-28955)

- データ読み取り(クエリー)
- データ読み取り(親→子リレーション)
- データ読み取り(子→親リレーション)

- 以下のオペレーションで、[折り返し文字数] に指定可能な最大値を変更しました。(DSS-28955)

- 検索パラメータ形成

変更前	変更後
19,950	99,950

- Salesforce API 40.0 アダプタを追加しました。(DSS-26401)  
本アダプタは、Salesforce API 40.0 への接続が可能なアダプタです。
- ヘルプで、データを送受信する際のデータ型の形式ルールについて記述した「データ型の形式」ページを追加しました。(DSS-25764)

## 11.4. Salesforce Bulk アダプタ

- Salesforce Bulk API 53.0 アダプタを追加しました。  
本アダプタは、Salesforce Bulk API 53.0 への接続が可能なアダプタです。
- 以下のオペレーションにて、スキーマ定義の API 項目を、指定したファイルにカンマ区切りで出力するプロパティを追加しました。  
本機能で出力したファイルを [ファイルからスキーマ定義を読み取り] で読み込むことが可能です。

[接続先] に「API 53.0」のグローバルリソースを選択した場合、使用できます。

- Bulk データ書き込み (INSERT)
- Bulk データ書き込み (UPDATE)
- Bulk データ書き込み (UPSERT)
- バッチ作成

- 以下のオペレーションにて、スキーマ定義の項目単位で、文字列「#N/A」へ置き換え可能にするプロパティを追加しました。  
本機能を使用することで、スキーマ定義の項目に対する入力データが null または文字列であった場合、文字列「#N/A」に置き換えるか、置き換えずに更新前の状態を維持するかを項目単位で選択することが可能となります。

[接続先] に「API 53.0」のグローバルリソースを選択した場合、使用できます。

- Bulk データ書き込み(INSERT)
- Bulk データ書き込み(UPDATE)
- Bulk データ書き込み(UPSERT)
- バッチ作成

- グローバルリソースで、Salesforce にて廃止された以下のAPI バージョンをサポート終了としました。
  - API 18.0



詳細については、ヘルプの「稼働環境」ページを参照してください。

- Salesforce Bulk API 50.0 アダプタを追加しました。 (DSS-29543)

本アダプタは、Salesforce Bulk API 50.0 への接続が可能なアダプタです。

- グローバルリソースの [オプション設定] タブで、セッションヘッダー、およびリクエストヘッダーのコールオプションに「defaultNameSpace」(名前空間)を設定するかどうかを選択できる機能を追加しました。(DSS-29543)

【プロパティ項目名】

[名前空間を指定する]

[名前空間プレフィックス]



詳細については、ヘルプを参照してください。

- グローバルリソースの [オプション設定] タブで、スクリプト実行時に使用する API の種別を選択できる機能を追加しました。(DSS-29543)

【プロパティ項目名】

[API 種別]



[API 種別] の [Bulk API 2.0] に対応するオペレーションは、以下の通りです。

- Bulk データ書き込み(INSERT)処理
- Bulk データ書き込み(UPDATE)処理
- Bulk データ書き込み(DELETE)処理
- Bulk データ書き込み(UPSERT)処理
- Bulk データ読み取り(QUERY)処理



[Bulk API 2.0] を選択する場合、いくつかの制限があります。詳細については、ヘルプ「グローバルリソースのプロパティ」ページの「Bulk API 2.0」項を参照してください。

- 以下のオペレーションで、BigObject の書き込みに対応しました。(※1) (DSS-29543)
    - Bulk データ書き込み(INSERT)処理
    - ジョブ作成処理 (※2)
    - バッチ作成処理
- ※1 [接続先] で以下の条件をすべて満たすグローバルリソースを選択した場合に使用できます。
- [接続タイプ] が「API 50.0」以降
  - [API 種別] が [Bulk API]
- ※2 [オペレーション種類] で [INSERT] を選択した場合に使用できます。
- Bulk データ読み取り(QUERY)処理で、BigObject の読み取りに対応しました。(DSS-29543)  
[接続先] に「API 50.0」以降のグローバルリソースを選択した場合、使用できます。
  - グローバルリソースで、Salesforce にてサポート終了が計画されている以下の API バージョンを非推奨としました。(DSS-29543)
    - API 29.0
    - API 26.0
    - API 23.0
-  詳細については、ヘルプの「稼働環境」ページを参照してください。
- ヘルプで、データを送受信する際のデータ型の形式ルールについて記述した「データ型の形式」ページを追加しました。(DSS-28955)
  - Salesforce Bulk API 43.0 アダプタ を追加しました。(DSS-28955, DSS-28421)  
本アダプタは、Salesforce Bulk API 43.0 への接続が可能なアダプタです。
  - 以下オペレーションで、時間データ型に対応しました。(DSS-28955, DSS-28421)
    - Bulk データ書き込み(INSERT)
    - Bulk データ書き込み(UPDATE)
    - Bulk データ書き込み(UPSERT)
    - バッチ作成

 詳細については、ヘルプを参照してください。

※[接続先] で「API 43.0」以降のグローバルリソースを選択した場合に使用できます。

- 以下のオペレーションの [Bulk オペレーション設定] タブに、取得したバッチ結果からエラーレコードのみ出力する[エラー結果のレコードのみ出力する] プロパティ項目を追加しました。(DSS-28955, DSS-28421)
  - Bulk データ書き込み(INSERT)
  - Bulk データ書き込み(UPDATE)
  - Bulk データ書き込み(DELETE)
  - Bulk データ書き込み(UPSERT)

 詳細については、ヘルプを参照してください。

※[接続先] で「API 43.0」以降のグローバルリソースを選択した場合に使用できます。

- ヘルプの「Bulk データ読み取り(QUERY)処理」ページで、「注意事項」項にクエリの結果が 0 件であった場合のメッセージファイルの出力先が「Salesforce サーバ」であることを表記しました。(DSS-28955)
- 新規に以下のプラットフォームに対応しました。(DSS-26990)
  - Amazon Linux 2
- Salesforce Bulk API 40.0 アダプタを追加しました。(DSS-26401)

本アダプタは、Salesforce Bulk API 40.0 への接続が可能なアダプタです。
- ヘルプで、データを送受信する際のデータ型の形式ルールについて記述した「データ型の形式」ページを追加しました。(DSS-25764)
- ヘルプの「Bulk データ読み取り(QUERY)処理」ページで、「注意事項」項にクエリの結果が 0 件であった場合のメッセージファイルの出力先が「Salesforce サーバ」であることを表記しました。(DSS-24767)

## 11.5. Salesforce Metadata アダプタ

- Salesforce Metadata API 53.0 アダプタを追加しました。  
本アダプタは、Salesforce Metadata API 53.0 への接続が可能なアダプタです。
- 以下のオペレーションは、Metadata API の仕様により選択リスト値は削除されず無効化されま  
す。  
これにより、オペレーションの機能を果たせないことから、Salesforce Metadata API 53.0 アダプ  
タではサポートしていません。

- 削除(選択リスト値)



詳細については、ヘルプの「削除(選択リスト値)」ページを参照してください。

- 選択リスト値の無効化および再有効化を行う以下のオペレーションを追加しました。  
本オペレーションを使用することで、複数の選択リスト値を、一括で無効化および再有効化するこ  
とが可能となります。

[接続先] に「API 53.0」のグローバルリソースを選択した場合、使用できます。

- 無効化/再有効化(選択リスト値)

- 以下のオペレーションにて、選択リスト値の無効な値を取得するプロパティを追加しました。  
本機能を使用することで、選択リスト値の有効な値に加え、無効な値を取得することが可能となり  
ます。  
また、取得した選択リスト値の状態(有効もしくは無効)を格納する項目を出カスキーマに追加しまし  
た。

[接続先] に「API 53.0」のグローバルリソースを選択した場合、使用できます。

- 読み取り(選択リスト値)

- 以下のオペレーションにて、グローバル値セットを使用した選択リストに対する処理が可能となりました。

[接続先] に「API 53.0」のグローバルリソースを選択した場合、適用されます。

- 読み取り(選択リスト値)
- 追加(選択リスト値)
- 更新(選択リスト値)
- 更新(選択リスト制御項目値)
- 並び替え(選択リスト値)
- 更新(選択リスト値 トランスレーション)
- 読み取り(レコードタイプ選択リスト値)
- 更新(レコードタイプ選択リスト値)
- 無効化/再有効化(選択リスト値)

- 以下のオペレーションにて、選択リスト値の表示ラベルの値を取得することが可能となりました。これにより、取得した表示ラベルの値を格納する項目を出カスキーマに追加しました。

[接続先] に「API 53.0」のグローバルリソースを選択した場合、適用されます。

- 読み取り(選択リスト値)

- 以下のオペレーションにて、API 参照名と表示ラベルが異なる選択リスト値を追加することが可能となりました。

これにより、表示ラベルの値を指定する項目を入力スキーマに追加し、これに対する項目を出カスキーマに追加しました。

[接続先] に「API 53.0」のグローバルリソースを選択した場合、適用されます。

- 追加(選択リスト値)

- 以下のオペレーションにて、選択リスト値の表示ラベルの値を更新することが可能となりました。  
これにより、表示ラベルの値を指定する項目を入力スキーマに追加しました。  
[接続先] に「API 53.0」のグローバルリソースを選択した場合、適用されます。

- 更新(選択リスト値) ※[更新種類] に [属性値] を選択した場合

- Salesforce でサポート終了が計画されている以下の API バージョンを非推奨としました。

API 29.0

API 26.0

API 23.0



詳細については、ヘルプの「稼働環境」ページを参照してください。

- Salesforce の仕様変更に伴い、正常に動作しないオペレーションが存在する以下の API バージョンを非推奨としました。

- API 34.0



詳細については、ヘルプの「稼働環境」ページを参照してください。

- グローバルリソースで、[接続タイプ] が「API 29.0」以前、および [ログイン先] が [login.salesforce.com] または [SandBox] の場合、[ログインURL] の API バージョンを「API34.0」に変更しました。(DSS-29543)

対象となるオペレーションは以下の通りです。

- 読み取り(選択リスト値)処理
- 追加(選択リスト値)処理
- 更新(選択リスト値)処理
- 更新(選択リスト制御項目値)処理
- 削除(選択リスト値)処理
- 並び替え(選択リスト値)処理
- 読み取り(レコードタイプ選択リスト値)処理
- 更新(レコードタイプ選択リスト値)処理
- 結果取得(AsyncResult)処理

メタデータ API のエンドポイントは、[接続タイプ] の API バージョンから変更ありません。

- 新規に以下のプラットフォームに対応しました。(DSS-26990)
  - Amazon Linux 2

**DCSpider V4.3 新機能ガイド**

第 1 版 2023.1.31

株式会社テラスカイ

URL : <https://www.terrasky.co.jp>

E-mail : [support@terrasky.co.jp](mailto:support@terrasky.co.jp)